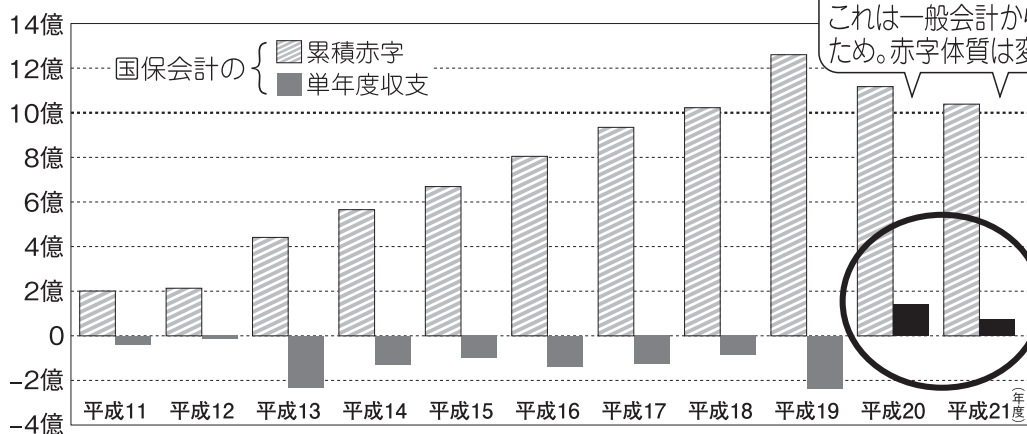


なぜ今、

石狩市国保を取り巻く現状

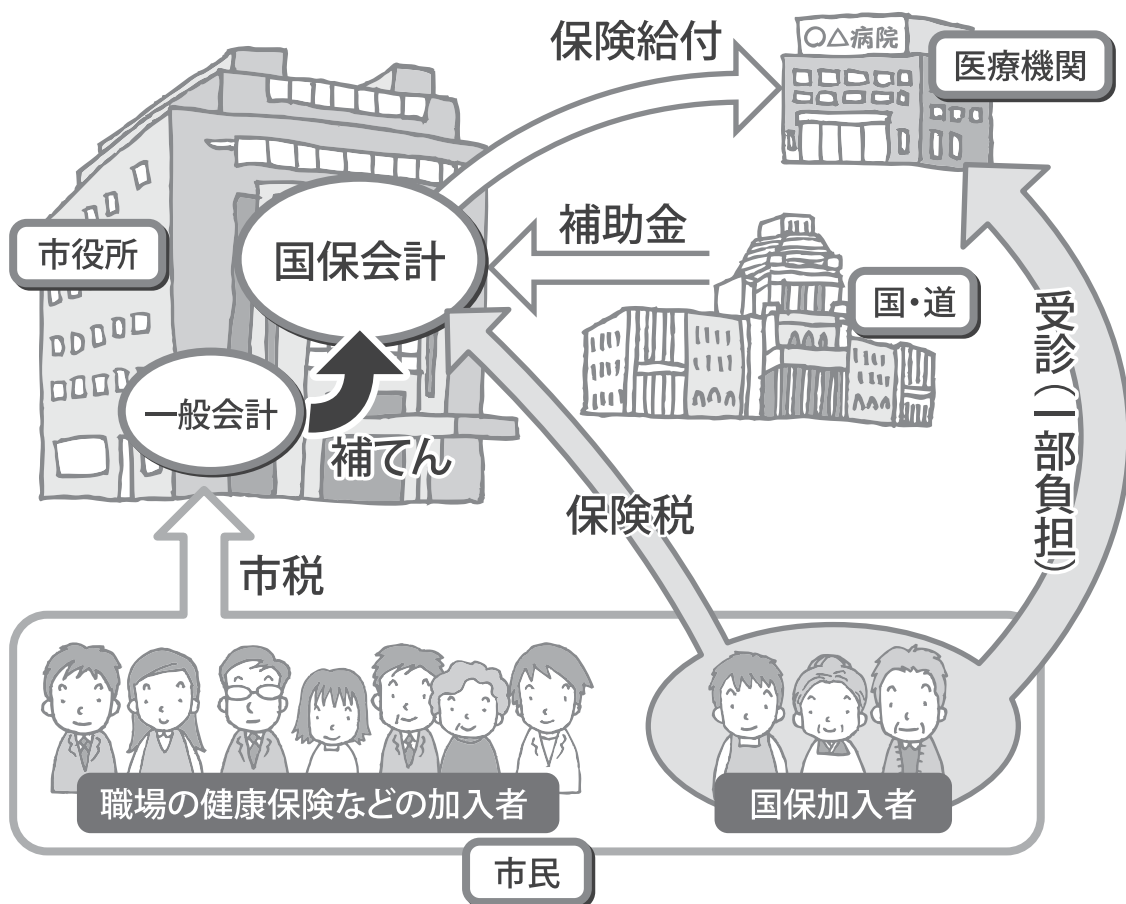
国保は赤字なのか

国民健康保険(以下、国保)会計の収支バランスが悪化しています。これは、決して放置できない問題です。国保は国民皆保険*を支える中核的な公的保険制度であるからです。国保財政を取り巻く現状と今後の対策について、お知らせします。



単年度収支は一見、黒字ですがこれは一般会計から補てんしているため、赤字体質は変わりません。

国保を守るためにも、累積赤字を解消する対策が早急に必要です。



【キーワード】国民皆保険とは？
日本に住む誰もが安心して医療を受けることができるための制度で、すべての国民が必ず医療保険に加入することが制度維持の前提となります。なお、職場の健康保険に加入している方やその被扶養者も、定年退職などによりいずれ国保に加入することになります(一部例外あり)。

現状

市の国保会計は今、約10億円の累積赤字を抱えています（グラフ参照）。収入を大幅に超えた支出の増——このような収支バランスを崩す原因は一体どこにあるのでしょうか。収入面で見ると、まず国保税の徴収が年々難しくなっています。不景気のため、リストラによる失業者やフリーターの増加などが影響しています。

対する支出は増える一方です。中でも6割を占める保険給付費は、上昇傾向にあります。石狩市が高度医療を受けやすい地域にあることや、今後も高齢化が進むことなども大きな要因と考えられます。

国保会計の赤字が毎年続き、収支のバランスがさらに崩れると、多くの市町村ではその差額分を一般会計の税金で補てんします。市もまた、平成21年度は総額約8億円（法律に基づいた人件費や事務費などを含む）を繰り入れました。ただし、これはあくまでも応急処置。なぜなら、一般会計からの補てんは、国保以外の健康保険に加入する方の市税を使うことになるからです（右図参照）。

社会全体を取り巻く経済情勢から、国保制度自体が抱える構造的問題にいたるまで、さまざまな要因が絡み合い、国保会計は危機的状況にあります。私たちの大切な医療制度を守るためにも、累積赤字ゼロを目指した早急な対応が今、求められています。

対策

市では昨年3月、独自の対策案として「第1次石狩市国民健康保険事業経営健全化計画」を策定しました。ここではその主な取り組みと期待される効果を挙げてみましょう。

◎徴収体制のさらなる強化→収入の増

昨年7月から市税と併せて国保の徴収業務も納税課で行うようになりました。これは、情報の一元化とともに差押えの強化により滞納額の縮減や組織上のコスト削減を目指すものです。

◎医療費の適正化を図る→支出の抑制

レセプト（診療報酬明細書）点検の充実や電算化を目指します。また、ジェネリック医薬品（安価な医薬品）に関する情報提供を積極的に行います。

◎保健事業の推進→支出の抑制+健康の増進

人間ドックや脳ドック、生活習慣病予防のための健康診査、それに併せた保健指導を実施します。また、市役所全体の取り組みとしてウォーキングを主体とするスポーツや、バランスのいい食事を推奨する講座・イベントを開催するなど、健康づくりを呼び掛けます。

* * *

平成19年度の年間診療分のうち、高血圧性の疾患や脳梗塞、糖尿病で支払われた保険給付費は32億5千万円でした。もしも、これらの病気を予防し、保険給付費の1%でも抑えられたら…約3200万円の医療費削減はもちろん、市民の皆さんの健康増進、さらには長期的な医療費抑制につながるはずです。

国保の維持は、一人一人が健康づくりの意識を持ち、取り組むことにあるのかもしれない。☒

石狩市国保を守る取り組み

